



アンケート報告



フードバンク活動マッチング支援システム アンケート（フードバンク版）

結果報告書

【目的】全国各地で活動されているフードバンク団体の活動の状況や課題を伺い、共通する項目からマッチングシステムを構築する上で、必要な情報や運用のための要望等を反映する。個別の課題や、地域特性の問題などから、汎用性のあるシステム作りに反映できるよう、全国各地のフードバンク団体にアンケートを配付し、回答にご協力をいただいた。

【実施期間】2020年10月1日～10月31日

【実施方法】Web 入力方式

【主催団体】特定非営利活動法人セカンドリーグ神奈川

【対象者・配付】農林水産省食料産業局バイオマス循環資源課を通じて案内を実施
フードバンク団体 120 件

【回収枚数】全 30 件（設問により回答が無い場合もあり）

【質問事項概要】

本アンケートでは主に、質問事項は以下の通り

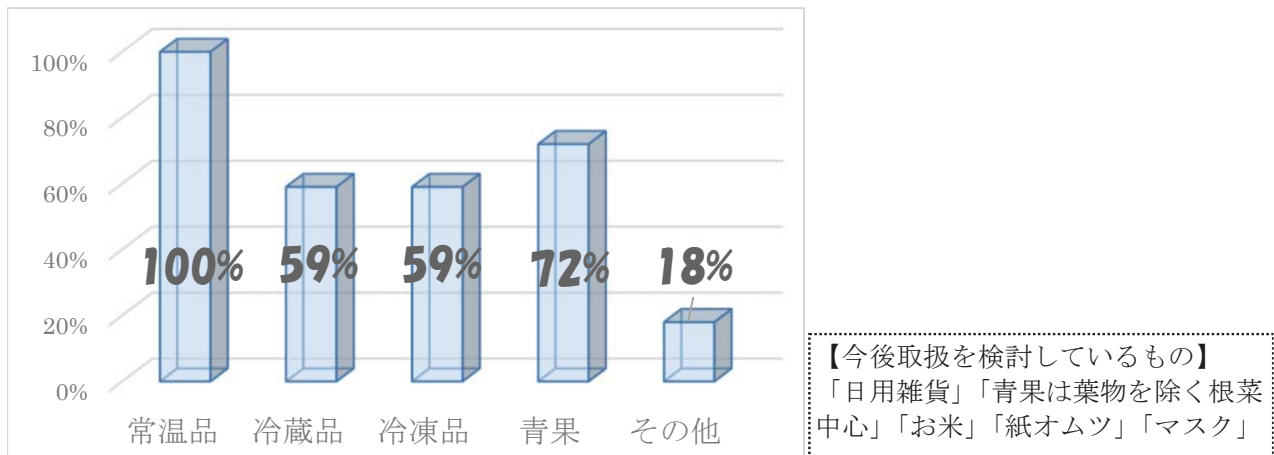
1. 取扱い食品の形態
2. フードバンク団体から見た現状の活動上の課題
(1)配送経費 (2)マッチング状況 (3)保管 (4)資金 (5)在庫管理 (6)管理・報告 (7)その他 (8)課題
3. フードバンク団体から見た、利用者（食品の提供先）からの諸要望
(1)食品保存 (2)食品の種類 (3)配送方法 (4)食品受取量
4. 利用しているシステムについて
5. システムへの評価
6. システムに必要な情報
7. システムで重要視する基準

【回答団体名（全 30 団体）】

	団体名
1【北海道】	特定非営利活動法人札幌市福祉生活支援センターフードバンク札幌
2【岩手県】	特定非営利活動法人 フードバンク岩手
3【宮城県】	NPO 法人 いのちのパン
4【宮城県】	特手非営利活動法人ふうどばんく東北 AGAIN
5【群馬県】	フードバンク桐生
6【群馬県】	一般社団法人中央ライフ・サポートセンター
7【茨城県】	フードバンク茨城
8【埼玉県】	NPO 法人フードバンク埼玉
9【埼玉県】	フードバンクいるま
10【埼玉県】	一般社団法人彩の国子ども・若者支援ネットワーク
11【埼玉県】	社会福祉法人 和光市社会福祉協議会 和光市くらし・仕事相談センター すたんど・あっぷ和光
12【千葉県】	フードバンクちば
13【千葉県】	フードバンクふなばし
14【東京都】	フードバンク TAMA
15【東京都】	フードバンク立川
16【東京都】	フードバンク八王子
17【東京都】	フードバンク狛江
18【東京都】	フードバンクいたばし
19【愛知県】	フードバンクのわみ
20【石川県】	NPO 法人フードバンク小松
21【福井県】	フードバンクふくい
22【福井県】	アースファムふくい
23【三重県】	フードバンク ISE
24【岡山県】	フードバンク アリス
25【岡山県】	順正デリシャスフードキッズクラブ
26【鳥取県】	フードバンクとっとり
27【熊本県】	フードバンク熊本
28【鹿児島県】	フードバンクお助けマン霧島
29【鹿児島県】	特定非営利活動法人フードバンクかごしま
30【鹿児島県】	フードバンクてしおて

【質問1】 貴団体で取り扱っている食品の形態を教えてください。

①常温品 ②冷蔵品 ③冷凍品 ④青果 ⑤その他
また、今後取り扱いを検討しているものをご記入下さい

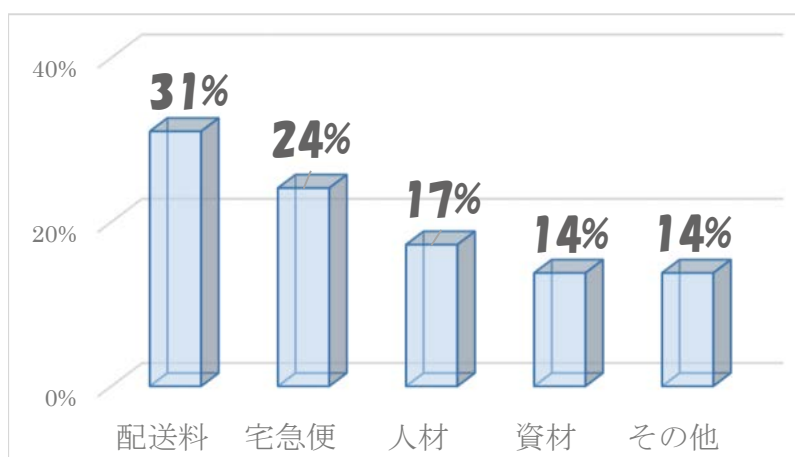


*フードバンクで取扱っている食品形態は常温品はほぼすべての団体で取扱われているのに対し、設備が必要な冷蔵品、冷凍品、青果などはまだ6割程度である。

【質問 2-1】 貴団体の課題を教えてください。

(1)配送について

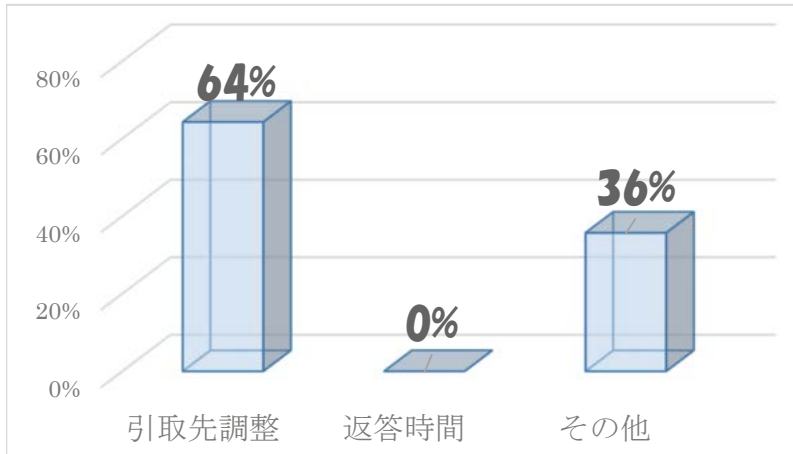
①配送料がかかる ②宅急便代がかかる ③配送できる人材 ④資材の不足 ⑤その他



*配送では、資金面(配送料、宅急便代)が3割以上。人材確保、資材不足も1割以上。

【質問 2-2】 貴団体の課題を教えてください。
(2)マッチングについて

①引取り先の調整に時間がかかる ②返答までの期日が短い ③その他



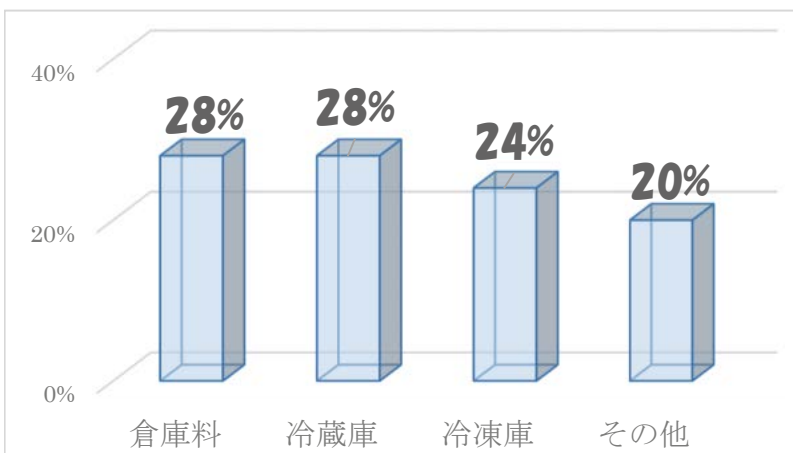
【その他】

- ・行政を通した個別配送のため、利用世帯の生活困窮度が間接的にしか分からない
- ・市民からの寄付等で食品を集めているが、不足した時には呼びかけてもすぐは集まらないため、食品を購入することが時々ある

*マッチングでは、引取り先の調整が6割である。ニーズと仕入れのバランスがとれないことから、自費で食品を追加購入している場合もある。

【質問 2-3】 貴団体の課題を教えてください。
(3)保管について

①倉庫料がかかる ②冷蔵庫が必要 ③冷凍庫が必要 ④その他



【その他】

- ・冷蔵庫は米用が2台
- ・冷凍は扱わない
- ・冷凍冷蔵庫は寄付の申し出があるが、輸送時に品質を保つための保冷車の所有が難しい
- ・倉庫はあるが受け入れの拡大は場所が狭いので出来ない

*保管倉庫料、冷蔵庫、冷凍庫の課題が同比率となっている。

【質問 2-4】 資金面について

(4)具体的に教えてください。(自由記述)

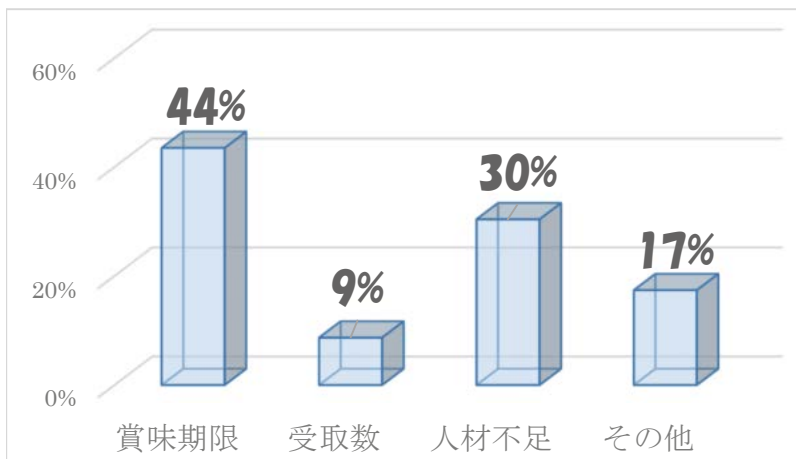
- ・人件費約 30 万、倉庫代 70 万全て他事業からの繰入れで賄う。事業を拡大するほど他の事業を圧迫。
- ・設立して 2 年目の一般の市民が集まって出来たフードバンクで財源が乏しい。
- ・助成金をいくつかいただいたり、会費や寄付で運営している。
- ・欲しい未利用食品があっても最近はフードバンク負担が多く、配送代が高くてオファーできない。
- ・助成金にも限度があり、借入金に頼っているがこれも返済に限度があります。
- ・学校法人として活動しているフードバンクであるため、学校法人と取引がある企業等からの寄付金を毎年募っている。こどもの成長を第一の目的とし、バランスよい食事を提供する観点から、学校法人として食品の購入も行っているため、持出資金も一定あるので、そこを削減できるようにしたい。
- ・本年 6 月～8 月までは赤い羽根募金の補助金で、人件費、ガソリン代等捻出できたが、例年予算がない中、スタッフ各個人の負担で行っているため、活動すればするほど負担が増える。
- ・広く、地元や一般企業に呼び掛けて活動するためには、パートタイム的な事務局員の確保、また活動をひろげる為に冷蔵庫の確保など、資金需要はあるが、不足。
- ・慢性資金不足。助成金なども書類手続きが煩雑すぎるので大変。
- ・人件費、電気代、倉庫代の捻出。
- ・寄付金が集まらない。
- ・職員採用や有償ボランティアの増員を行うには資金の壁があり、大きな課題。
- ・現在は寄付・助成金でやりくりしています。
- ・運営費は特に必要としていないが、大型冷凍庫・冷蔵庫が欲しい。
- ・人件費を払うだけの資金がない。
- ・現在年間 1300 万円程度の事業費だが 2000 万円程度あれば安定的な活動が行える。
- ・食品については、市民から寄付で購入。それ以外の維持費などは現段階では特に掛かっていない。

*資金では、寄付・助成金、他の事業からの調達があるが、慢性的な資金不足、設備不足、人件費不足、そして助成金申請手の煩雑さ等、多数の課題がある。活動を拡大すればするほど資金不足、活動者の個人負担も増える。

【質問 2-5】 貴団体の課題を教えてください。

(5)在庫管理

①賞味期限の管理が負担 ②受取数と利用数があわない ③管理する人材の不足 ④その他



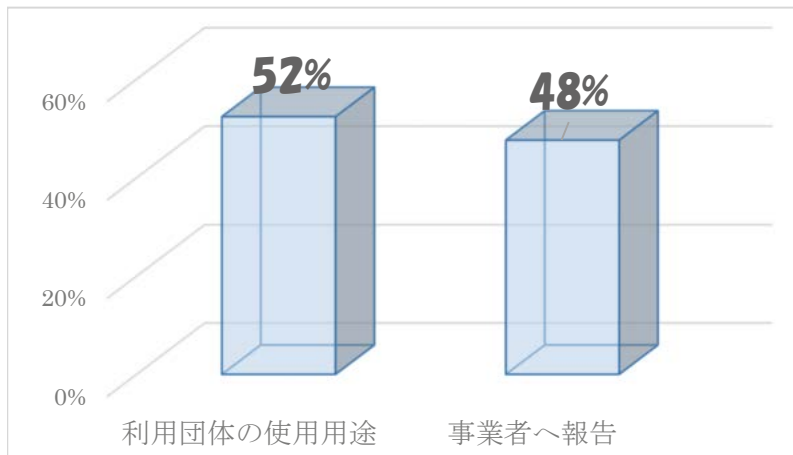
【その他】

- ・あまりにも期限が短すぎるものがあり、せめて 2 週間ほどの余裕が欲しい。3 日程しかないものもある。

*在庫管理では、4 割以上が賞味期限の管理について課題を感じている。

【質問 2-6】 貴団体の課題を教えてください。 (6)確認と報告

①利用団体の使用用途の確認 ②食品提供事業者への報告



【その他】

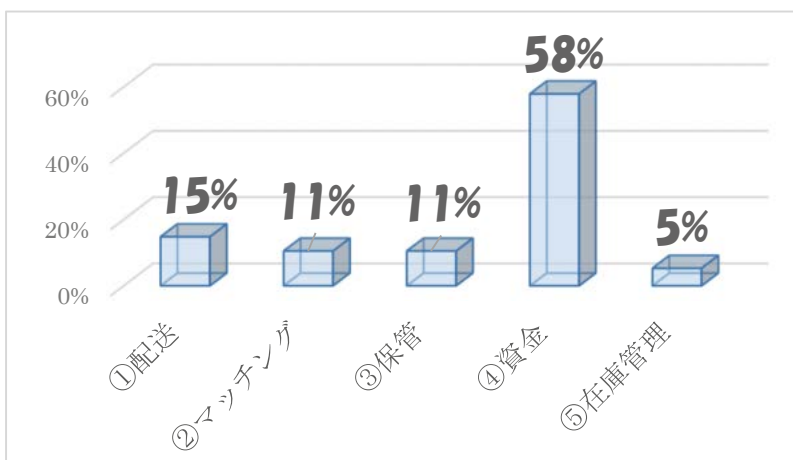
- ・将来 NPO 法人化を目指している
- ・食材が集まらない
- ・食品関連事業者への受領書等、求められるものがまちまちであるため、書類作成が煩わしい。
- ・後継者の育成
- ・行政との協力関係は、必要。
- ・お礼状の作成
- ・地域間の差分を埋めるための県や地方をまたいだフードバンク団体間の食品の融通

*最終利用団体の「使用用途」を確認することに課題を感じているのは5割。食品提供事業者への結果報告をすることに負担を感じているのも4割を超える。

【質問 2-7】 その他

その他課題について、回答はありませんでした。

【質問 2-8】 上記のうち、とくに一番課題と思うのはどれですか。

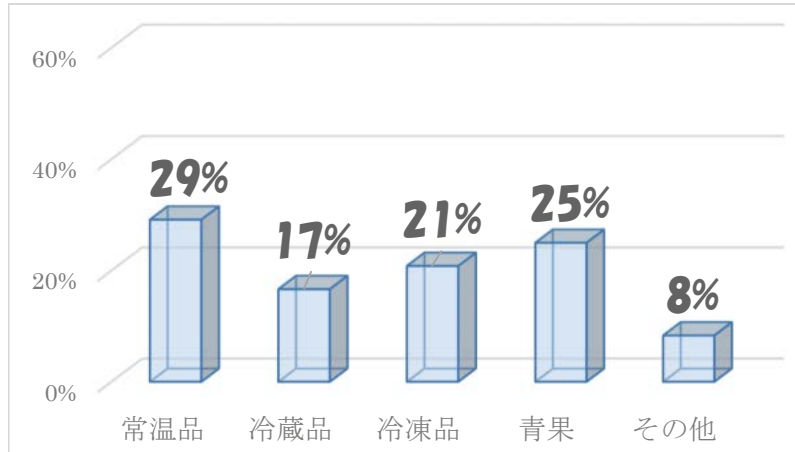


*上記の中で一番の課題と感じているのは「資金面」であり、5割を超えている。

【質問 3】 フードバンク側から見た提供先団体側の要望として今までに頂いた意見等があれば教えてください。

(1)食品の保存状態についての要望

①常温品 ②冷蔵品 ③冷凍品 ④青果 ⑤その他

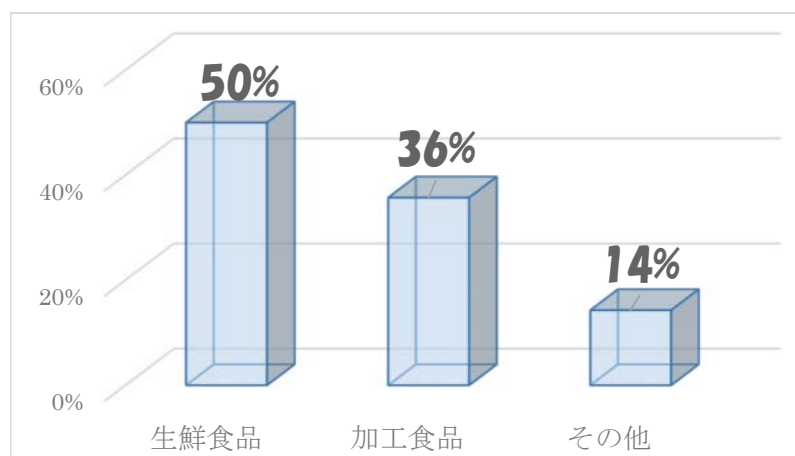


【その他】
・精米の品質管理

* 提供先からは常温、冷蔵、冷凍、青果などの形態にかかわらず全般的に常に 2 割以上の要望がある。ニーズからの意見・要望は多い。

(2)食品の種類についての要望

①生鮮食品
②加工食品
③その他具体的な品名

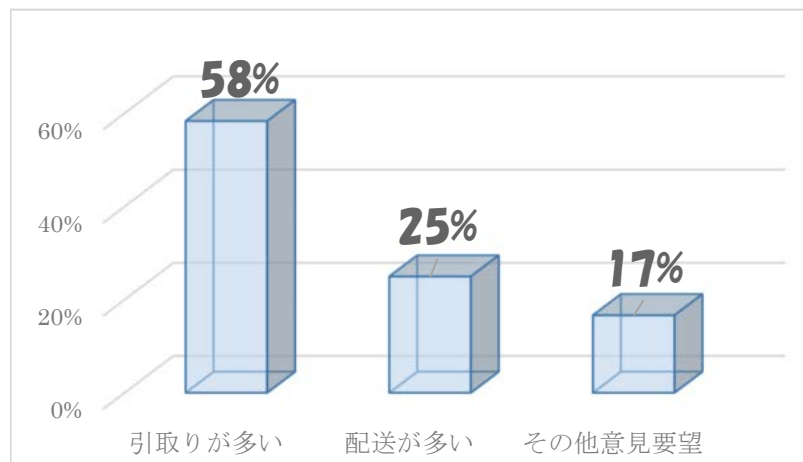


【その他】
・すぐ食べられるレトルト的なもの

* 生鮮食品の要望が高い。

(3) 配送方法についての要望

- ①提供先による引取りが多い
- ②配送が多い
- ③その他配送についての要望



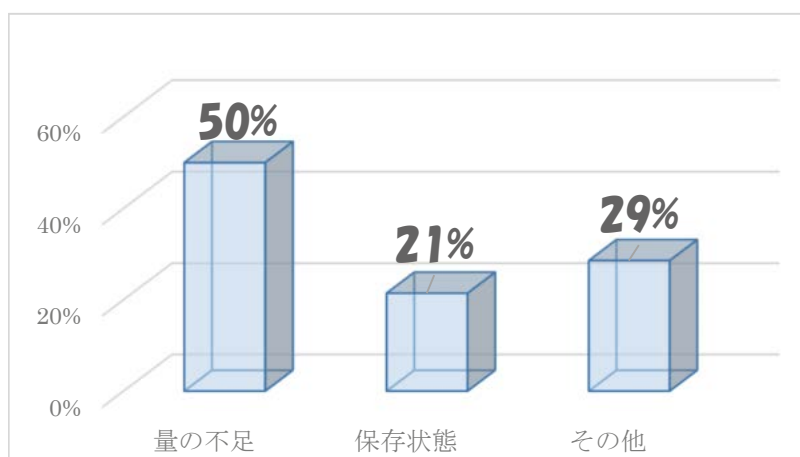
【その他】

- ・引取りに来られない人への配達が困難

* 配送方法は、提供先が引取りにくることが多い。

(4) 受取ることのできる食品の量についての要望

- ①届ける量が比較的不足している
- ②保存状態について
- ③その他



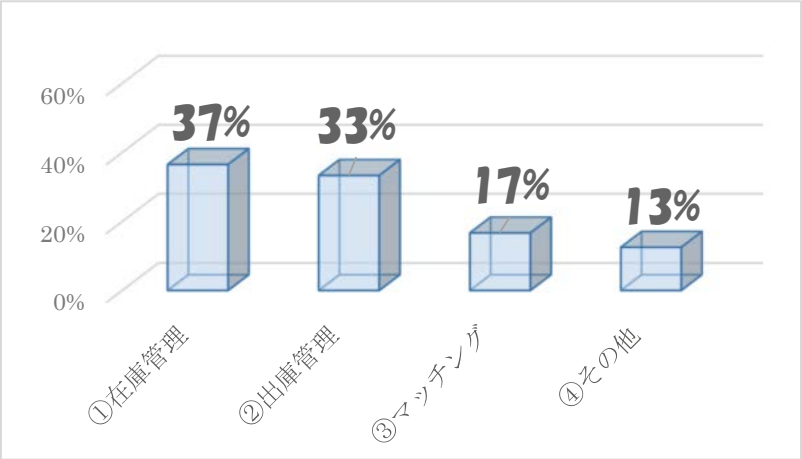
【その他】

- ・小さい団体なのであまり多い量は逆に受取れない
- ・季節によって配送中に米等に害虫が付くことがある
- ・冷蔵品に対する要望が多い

* 届ける量不足についての意見が多い。

【質問 4】 貴団体ですでに使われているシステムについて教えてください。

- ①在庫管理業務
- ②出庫管理業務
- ③利用団体へのマッチング
- ④その他



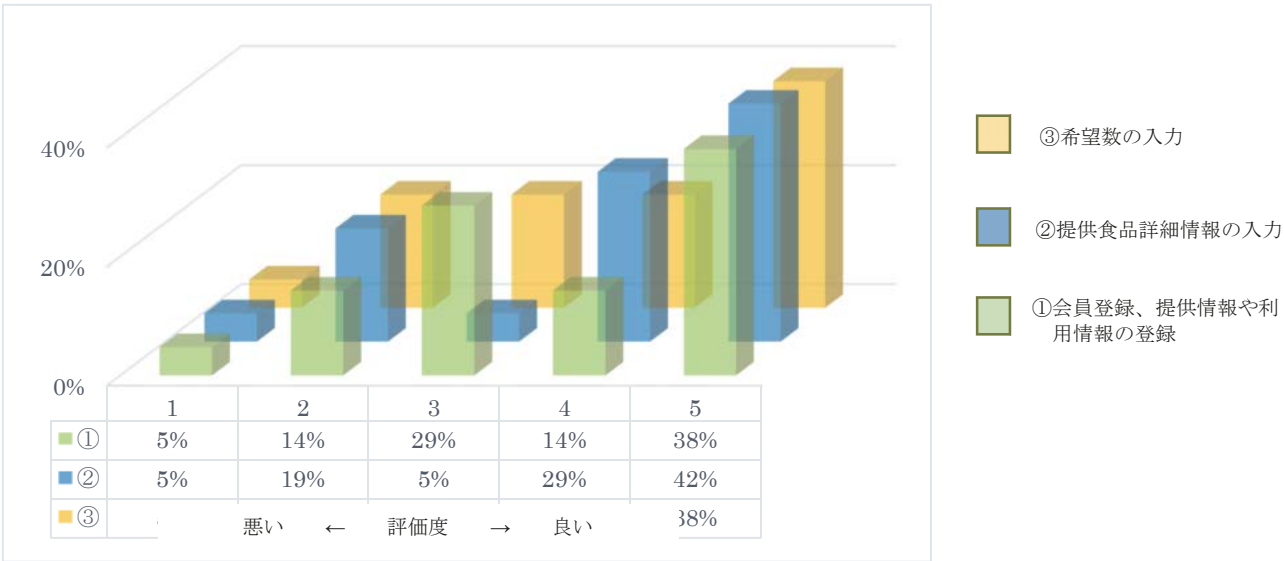
【その他】

- ・住所・利用者の生活状況の管理及び、宅配業者の配送システムへの紐付けシステム
- ・受領品の重量
- ・パソコンのエクセルなどで管理しているのみ

*在庫管理、出庫管理システムはすでに多くで使われているが、マッチングシステムはまだ導入が進んでいない。

【質問 5-①②③】 以下の特徴を持ったシステムを開発中です。貴団体の業務に対する評価を教えてください。

- ①食品関連事業者、利用団体が会員登録し、システム上で食品情報・利用先を確認できるシステム
- ②食品関連事業者または貴団体が、提供食品情報をデータ入力できる
- ③利用団体が提供食品の情報を閲覧し、希望数を入力できる



*会員登録をしてシステム上で食品情報・利用先を確認できること。同一のシステム上で食品関連業者が提供食品情報を入力して、それを利用団体が閲覧し、希望数を入力できることへの期待がある。

**【質問 5-④⑤⑥】 以下の特徴を持ったシステムを開発中です。貴団体の業務
 に対しての評価を教えてください。**

- ④数量の確定機能の必要性【A パターン】＝希望数を入力した際に先着順で確定。
 ⑤数量の確定機能の必要性【B パターン】＝システム管理者が数量を確定する機能。
 ⑥引渡し当日に引取った数量を各利用団体が報告。



＊マッチングの確定機能については、先着順に希望数を確定させる機能も、システム管理者が数量を確定する機能のどちらも重要度が高い。利用団体が引取った数量を入力する機能も重要度が高い。

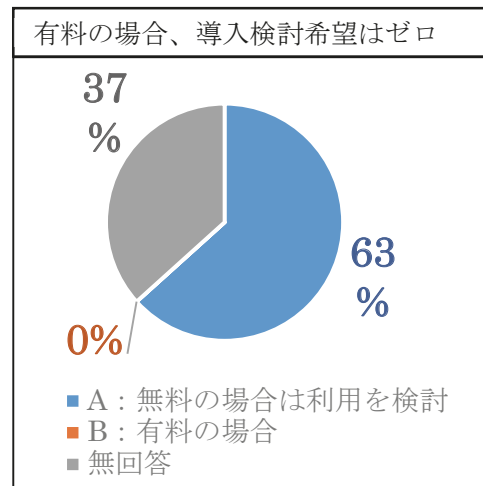
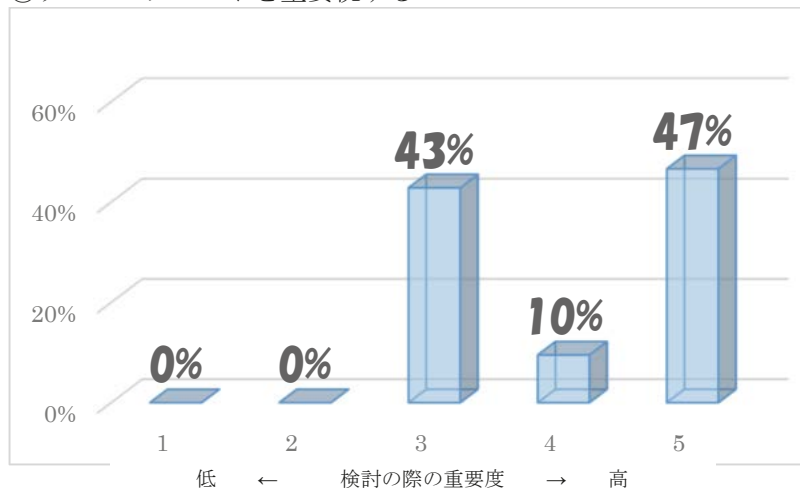
【質問 6】 フードバンク活動を行うにあたり、システム上、必要であると思うことを教えてください(自由記入)

- ・食品の在庫量・賞味期限・受け入れ数量・提供数量を総合的に管理するシステム。
- ・トレサビリティシステムの簡素化。
- ・今はメールでのやりとりですが、フォーマットに記入して企業に配信できるようなシステムがあればスムーズに行くように思います。
- ・商品名など多数の時に非常に手間がかかる。
- ・通販サイトみたいな感じのフォーマットがあればよいと思います。
- ・ボランティアだけでは活動に限度があります。現在 1 回の集荷・配送には 1 回 1,000 円を支払い、維持しています。理事さんは無償で働いて頂いています。
- ・利用世帯の生活状況の把握在庫管理、賞味期限管理。
- ・利用団体の秘匿性や食品リストが他にわからないようにすること（シェルター等）。
- ・食品関連事業者とフードバンク団体がシステム上だけのマッチングになってしまうことは、単なる物（食品）のやり取りだけになりかねない。本来、団体の理念や活動形態などを食品事業者側に十分に理解してもらい互いに信頼関係を築いたのちに食品のやり取り、または活動資金提供へ繋げていくのが持続可能なフードバンクのあり方だと考えるので、マッチングサイト頼りになってしまうと個別に企業へ対して自団体の特性や活動理念を伝えにくく、その先にある企業との業務提携や活動資金提供に影響が及ぶ。また、マッチングサイトを構築することは企業に対して食品ロス削減ではなく、フードバンクを都合の良いゴミ箱として廃棄コストの削減と受け止められる可能性があるため、それを防ぐ何らかの対応がシステム上で必要であると思う。
- ・システムの簡略化。
- ・⑥について、利用団体が報告ではなく、提供団体が提供食品の明細を出した方がよいと思う。
- ・入荷と出荷の管理。
- ・経費負担なしでの提供を希望します。システム運営の人件費がかかるので 導入したくない。
- ・ある程度対象となる出し先を精査し、「ばらまき」にならないようにする。

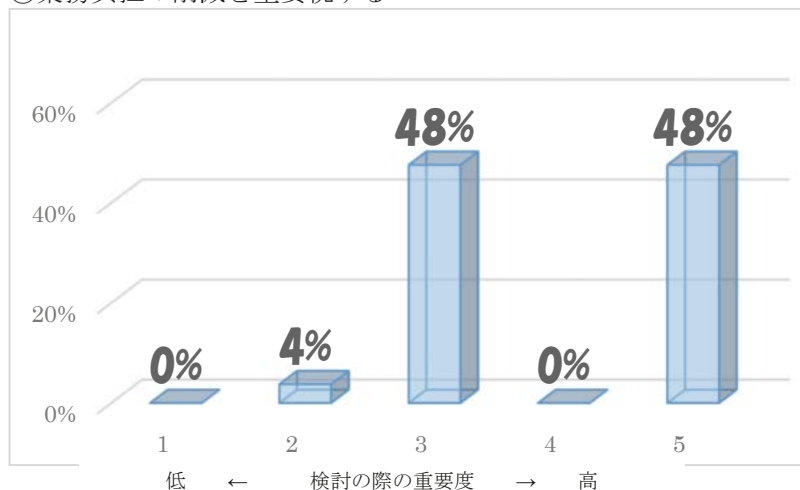
＊他に、メール機能の付与、利用者個人の情報入力、簡略なフォーマットが期待される。また、フードバンク活動団体において、システム利用費の負担は厳しく、新システムの導入の壁となっている。

【質問 7】 フードバンクのマッチングシステムを、貴団体が実際に導入する際は、重要視する基準を教えてください。

①ランニングコストを重要視する



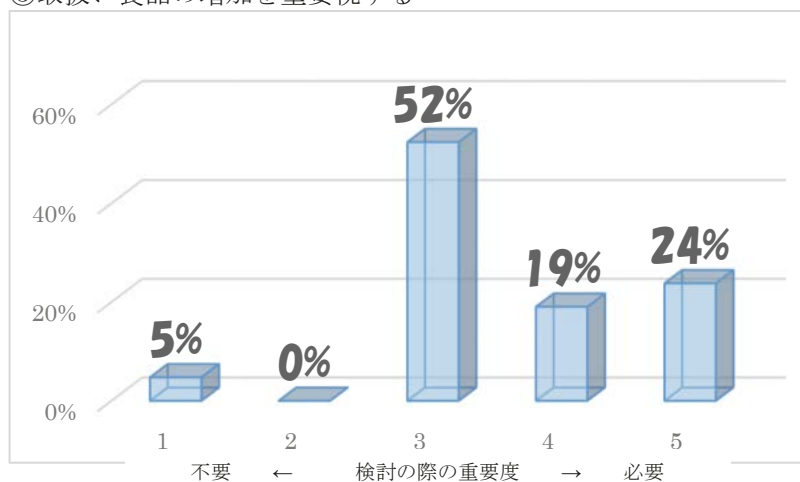
②業務負担の削減を重要視する



業務負担がどの程度削減できると良いですか

【記述欄】・・・2割ほど軽減できたら／バーコードでパソコン管理できたらいい／パソコンのできないスタッフが多いため結局事務量はあまり変わらないのではと心配／現在入出庫は手書きで件数とキログラムで記入している／提供団体からはメールで照会が来て、希望数を入力し受け取っている。入力作業などが負担2～3割程度の削減を希望／フードバンクをメインにして事業を行わず困窮のメニュー支援として事業を行っているので、どのくらいの業務がシステムで負担減になるかは分からない。

③取扱い食品の増加を重要視する



取扱い食品がどの程度増加すると良いですか

【記述欄】・・・
 ・全く足りていない。
 ・増加すればする程希望者が多くなります。米やミルク、ベビーフードなどが圧倒的に不足している。
 ・同様な食品が増加するより、米等、主食となるものが利用団体に見合った程度増加すると貧困家庭が助かる。
 ・種類が少ないので種類が増えることと、希望する食品を選べると良い。
 ・米、アルファ米、レトルト食品、缶詰等の取扱量が現在の倍程度を希望
 ・相談者への提供側としては常に一定に食品がある状態が望ましいが、寄付などに頼っているため、食品の増減が激しい状況。

*新システム導入にあたっては、ランニングコスト、コストパフォーマンス、取扱食品の増加など多様な効果が見込まれることが前提となる。

④その他の評価基準

- ・わかりやすく、だれでもできる。
- ・無料。
- ・名だけや活動実績のないフードバンク団体が利用できない仕組み。
- ・他のフードバンク団体がシステム利用に伴う事故やトラブルが発生した場合（例：企業との信頼関係を失うような事例）に、自団体にその影響が全く及ばない仕組み。
- ・特にフードドライブを行っている団体とは混じり合うのは避けたい。便利なシステムを開発されることを祈念しています。全ての自治体にフードバンク団体が必要です。
- ・最終的に全てのスーパーや食品会社にフードバンクに寄付する法律ができると良い。
- ・私どもの場合、重量物の運搬が最大の負担となっている。
- ・システムの必要を感じない。
- ・引取り団体との調整役をフードバンクが担うには事務負担が多すぎる。
- ・会員登録数パート職員やボランティアでも操作可能なやさしいものをお願いします。

フードバンク活動マッチング支援システム アンケート（生協版）

結果報告

【目的】フードバンク活動に協力・支援、また実際に運営している全国の生協の状況と課題を伺う。生活協同組合ならではの社会的意義や役割だけでなく、実際の取り組みや運営で改善できる項目等から、中間支援的役割として有効性のあるフードバンク活動マッチング支援システム構築をめざしアンケートを実施。

【実施期間】2020年11月15日～12月31日

【実施方法】Webでのアンケート

【主催団体】特定非営利活動法人セカンドリーグ神奈川

【対象者・配付】日本生活協同組合連合会を通じて全国生協へ案内を実施

【回収枚数】全39件

【質問事項概要】

本アンケートの質問事項は以下の通り

1. 生協として取り組んでいる「くらし課題（主に困窮支援）」の取組内容
2. 「くらし課題（主に困窮支援）」に取り組んだことによる状況の変化
3. 提供している食品の形態およびその量
4. 提供にあたり、利用団体（こども食堂等）からの要望の把握の仕方と、対応内容
5. 食品提供にあたっての課題。
6. 利用団体との誓約書の有無。契約内容
7. フードバンク活動を運営・検討する場合の課題
8. すでに使われているシステム
9. 新しいマッチングシステムを活用する場合の評価
 - ・食品提供者の登録
 - ・利用団体の登録
 - ・提供食品情報の登録(保管場所、引渡条件、アレルギー表示、賞味期限など)
 - ・食品提供情報の閲覧と希望数の入力
 - ・引取り結果報告の直接入力と、活用状況の把握
 - ・新しいマッチングシステムを利用したいと思う場合の、評価基準

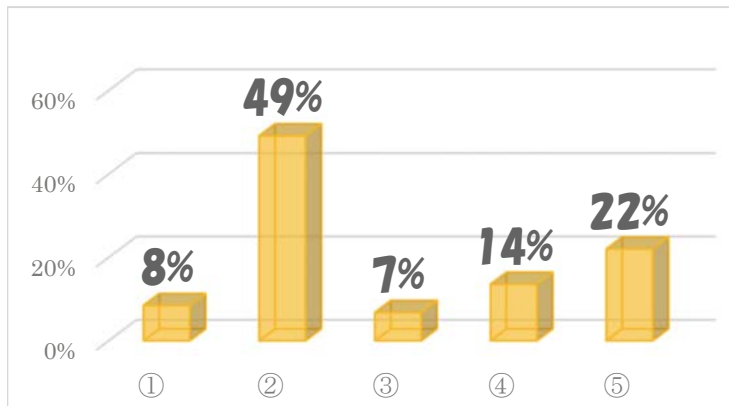
【回答団体名】

	都道府県	団体名
1	北海道	生活協同組合コープさっぽろ
2	岩手県	岩手県生活協同組合連合会
3	宮城県	みやぎ生協
4	宮城県	みやぎ生活協同組合
5	富山県	生活協同組合 CO・OP とやま
6	群馬県	生活協同組合コープぐんま
7	栃木県	とちぎコープ生活協同組合
8	埼玉県	生活協同組合パルシステム埼玉
9	千葉県	生活クラブ生活協同組合
10	東京都	東都生活協同組合
11	東京都	生活クラブ生活協同組合
12	東京都	コープデリ連合会
13	東京都	生活協同組合パルシステム東京
14	東京都	生活協同組合コープみらい
15	神奈川県	生活協同組合パルシステム神奈川
16	静岡県	生活協同組合パルシステム静岡
17	新潟県	生活協同組合コープにいがた
18	富山県	生活協同組合 CO・OP とやま
19	奈良県	市民生活協同組合ならコープ
20	京都府	京都生活協同組合

	都道府県	団体名
21	大阪府	大阪よどがわ市民生活協同組合
22	大阪府	大阪いずみ市民生活協同組合
23	大阪府	生活協同組合おおさかパルコープ
24	兵庫県	生活協同組合コープこうべ
25	広島県	生協ひろしま
26	鳥取県	鳥取県生協
27	山口県	生活協同組合コープやまぐち
28	徳島県	とくしま
29	高知県	こうち生協
30	愛媛県	コープえひめ
31	福岡県	エフコープ
32	福岡県	エフコープ生活協同組合
33	大分県	生活協同組合コープおおいた
34	大分県	生活協同組合コープおおいた
35	大分県	グリーンコープ生協おおいた
36	熊本県	生活協同組合くまもと
37	長崎県	グリーンコープ生協（長崎）
38	長崎県	生活協同組合ララコープ
39	沖縄県	コープおきなわ

【質問1】 貴生協が取り組まれている「暮らし課題(主に困窮支援)」に関する取り組みについて教えてください。(複数回答)

- ①「こども食堂」「地域食堂」などを運営している
- ②「こども食堂」「地域食堂」などを運営している団体を支援している
- ③奨学金・生活資金の貸付等、資金面での支援をしている
- ④衣類・雑貨等、物品面での支援をしている
- ⑤その他



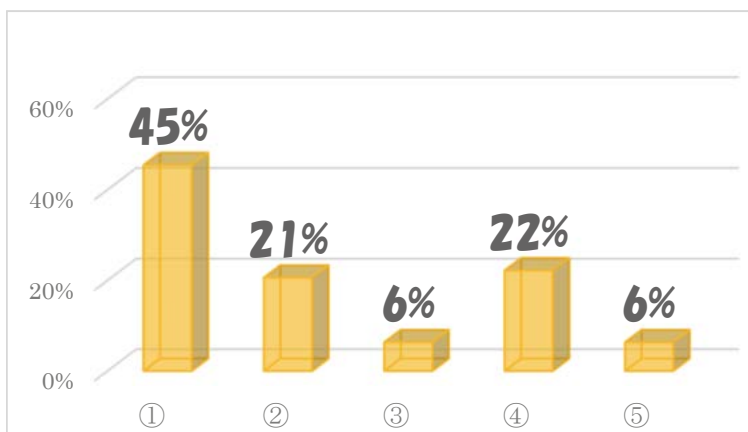
【その他】

一般社団法人 福岡県フードバンク協議会の運営を通じたフードバンク団体の支援／就業支援を運営している団体を支援／事業連合としてコープフードバンクを運営／福岡県フードバンク協議会を県と共に立ち上げ、場所の提供（支所内）とスタッフを派遣／食材を寄付／フードドライブを実施／店頭・組合員施設でのフードドライブ活動、暮らし課題の学びと共有・発信／制服リサイクル活動の支援（店舗に回収箱）／組合員さんから提供された食品のフードバンクへの寄贈(常温品に限る)／配達時のフードドライブを実施／フードバンク活動団体への支援（食品寄贈、フードドライブ）

* 生協は地域の「こども食堂」「地域食堂」等実運営よりも運営団体を支援しているケースが多い。

【質問2】 「暮らし課題(主に困窮支援)」で具体的にあてはまるものにチェックをつけてください。(複数回答)

- ①食品提供 ②倉庫や調理スペースなど場所の提供 ③ボランティア派遣 ④資金提供 ⑤その他



【その他】

宮城県・仙台市でのネットワーク構築をNPOと協同で取り組み中／商品検査センターの協力を得て食品衛生に関する啓発動画を作成し配信したり、こども食堂で糖度実験を行ったり、みそづくり教室開催など、食育活動へも協力している。／食材提供場所の貸し出し／食品提供は取引先にも協力を依頼し、生協の店舗など事業所を受け渡し場所として提供。

* 支援形態は食品提供が一番多いが、倉庫や調理スペースなどの場所や資金の提供も割合を占めている。

【質問 3】 貴生協が「くらし課題(主に困窮支援)」の課題を取組まれたことによる状況の変化などありましたら教えてください。(自由記述)

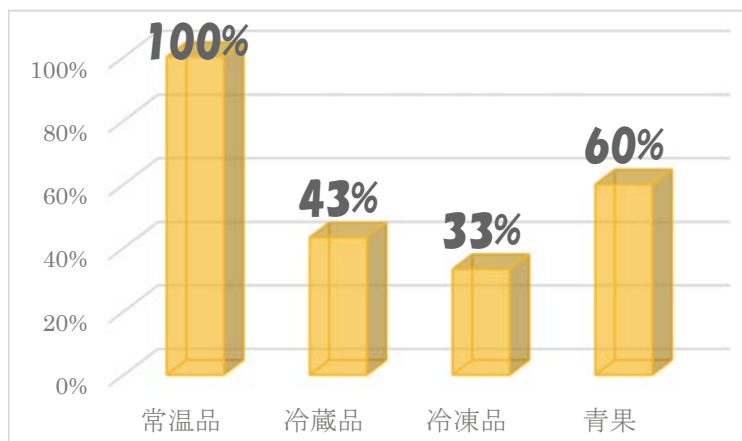
福岡県フードバンク協議会が企業の窓口となり企業開拓と食品寄贈を担い、フードバンク団体は利用者へのフォローに、もっと力を入れられる関係となった／支援を通じた広報により、組合員よりお手伝い希望の問い合わせが複数あった／組合員、役職員の生活困窮支援の必要性に対する理解が深まった／家計相談貸付事業開始に向けた組合員合意づくりの中で、組合員どうしでの「生協とは何か」の議論がすすめられこと／行政からの事業受託など行政や関連団体との連携が強まった／(今春のフードパントリー開催で) こども食堂運営者の顔が見えるようになり、リアクションも感じられるようになった／地域のネットワークが広がった／行政や社会福祉協議会とのつながりが深くなった／団体とのつながりができ、生協の組合員拡大に結びついた／こども食堂等と協同の取り組みから、行政の支援策との連携やネットワークの構築へと進んでいる／地域社会へのコープの参加の強まり。自治体首長訪問での地域課題や取り組みの共有。奨学金制度による学校教育への認知度と組合員への困窮支援への理解の深まり／フードバンク団体を通じて管理期限切れ商品や返品商品を提供支援した／新型コロナウイルスの影響により今すぐに食品が必要になった生活困窮者の方に食品提供を行った／(生協店舗に) フードバンクボックスを常設した／フードドライブの活動を通じ、食品ロス削減というテーマの啓発活動につながった／生協に対する関係部局の理解の広がり／フードバンクへの食品寄贈は組合員さんに認知されて、年々増加／利用団体とのつながりができ、よりリアルな活動状況を把握しやすくなったため、より利用団体に寄り添った支援を考えることができるようになった／「生活クラブエコロこども基金」を創設し、都内でこどもや子育て家庭の支援を伴走型で行う団体の活動や事業を対象に助成を開始／地域拠点・物流拠点として食品の運搬・貯蔵・マッチングを担ってほしいとの期待が、NPO団体やこども食堂運営団体から寄せられている／「生活困窮者等に対する食糧支援に関する協定書」を一般社団法人、水俣市社協、生協くまもとの3者で締結を行いました／貧困をはじめとするこどもの問題を考える機会が増えたこと。幣組合でフードドライブを開催する意義が、「食品ロスの削減」だけでなくその先の「困っているこども」に届けられる、活用されることへの理解が広がった

* 生協のネットワークを通じて、行政や社協とのつながりが増え、フードバンク団体やこども食堂運営団体等とのつながりがひろがりをみせている。

* 質問 4～質問 9 はこども食堂等を運営及び他団体へ「食品提供」を実施されている生協に回答頂きました。

【質問 4】 貴生協が提供されている食品の形態を教えてください。(複数回答)

①常温品、②冷蔵品、③冷凍品、④青果



* 生協の取扱い商品は、常温品について青果が多い。

【その他】

パルシステムの調味料／生活雑貨／台風や大雨災害で配達できなくなり、廃品扱いとなった共同購入商品／おむつ、洗剤／トイレトーパーやティッシュ、洗剤などの家庭用品全般／生活雑貨品／常温品に含みますが米。紙おむつ／雑貨／雑貨(文房具、日用品など)／キッチン消耗品や生活雑貨／なし／青果に関しては、取引先に協力を依頼し、生協の店舗など事業所を受け渡し場所として提供

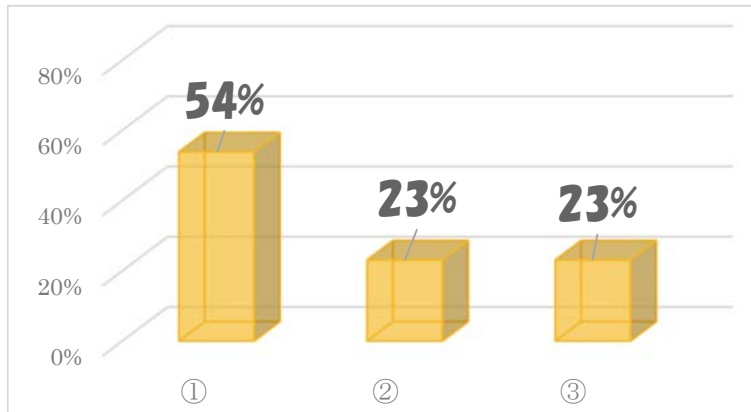
**【質問 5】 貴生協で取扱う食品提供のおおよその量を教えてください。
(自由記述)**

- ・ 福岡県フードバンク協議会を通じて県内 4 団体へ 167 トン (2020 年度上期)
- ・ 青果提供は、月 100～120 kg、調味料は年間 2 万円まで
- ・ 年間 20 カゴ車程度
- ・ 年間 20 t 程度
- ・ 金額換算で年間 7,500 万円相当
- ・ 2019 年度コープフードバンクへのみやぎ生協からの提供量：42.4 トン
- ・ フードドライブを毎月実施し、フードバンク 3 団体に協力しています。フードドライブ＝2019 年度実績 1,925.4kg
- ・ 月平均 3.5 トン(2019 年度実績)
- ・ 年間 60 トン (2019 年度実績)
- ・ 2019 年度はお米 9,163kg、青果 30,023kg、フードドライブ 11,422kg
- ・ 年間 50 箱程度
- ・ 米 9163kg 農産物 30,023kg 紙おむつ 3,318 パック。その他、店舗・組合員施設ごとに対応
- ・ 300 キロ
- ・ 重量は把握できていませんが、2019 年度は金額にして年間 415 万円ほど
- ・ 2020 年度：1,888 kg
- ・ 2019 年度実績 43,069 品 (18.23 トン)
- ・ 約 3,240kg
- ・ 月間 50 キロ程度、フードドライブ時 2020 年度は 1,000 kg
- ・ 月に 150 人分 (1 カゴ車)
- ・ 2019 年度は 5,719 点・2,196kg
- ・ 1 団体×10 万円分の商品(供給価格)×27 団体、約 1000kg をフードバンク 6 団体に提供、臨時支援として 1 団体 30 万円分の商品をフードバンク 6 団体に提供。
- ・ 2019 年度実績 18,230kg (43,069 品)
- ・ 2019 年度実績 430 k g 2020 年度 4 月～11 月実績 388 k g
- ・ 台風時の入荷遅れによる欠品商品の提供 約 77,000 個。 コロナによる臨時休校時と、シングルマザー支援の常温商品提供約 5,000 個
- ・ 年間 1,600 点程度
- ・ 生協より 常温品および日曜雑感品なども含め 150 kg 程度 (月あたり)・取引先より 米 100 kg 程度 (月あたり)
- ・ 野菜 150 kg 程度 (月あたり)
- ・ 年間で 3,000kg 程度／年間 1700 kg を見込む (2020 年度)

*食品の取扱量は多いところで年間 60 トンを超える。

【質問 6】 食品提供にあたり、利用団体(こども食堂・地域食堂等)の要望をどのように把握し、どの程度対応していますか。

- ① 事前に希望は聞いていない。余剰品が出た段階で団体に案内する。
- ② 事前に希望を聞いているが、希望の範囲でない食品でも、団体に案内する。
- ③ 希望を聞き、希望の食品を提供している。

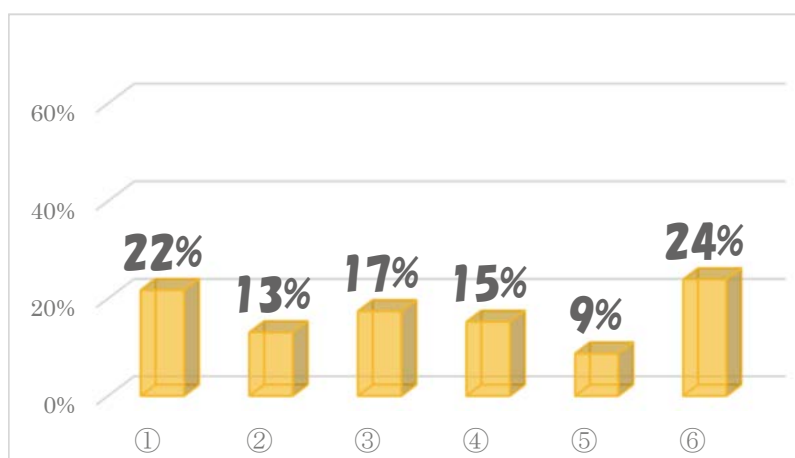


【その他】フードバンク 3 団体に協力して、フードドライブを毎月実施しています。／こども食堂運営者には直接聞いてはおらず、支援団体とやりとりしています／物流センターに取りに来ていただき、必要なものを持って帰ってもらっている／上記 3 つ、さまざまなパターン事例を経て提供を実現しています／希望は聞いていません。集品センターで発生する余剰品を毎週提供しています／フードバンクへの提供のため、利用団体からの要望を聞いているわけではない／鶏卵は事前に必要数を聞き取っている／各こども食堂の要望を聞き、取引先にも協力を依頼し、可能な範囲で対応いただいています

* 食品提供は利用団体の要望を聞くよりも、余剰品が出てから利用団体に案内するケースが倍である。

【質問 7】 貴生協が食品提供を実施するにあたり、課題があれば教えてください。

- ① 利用団体への連絡・希望数の調整など食品のマッチング
- ② 在庫の管理
- ③ 引渡しに関する負担(宅急便など配送費用・人員など)
- ④ 食品に関するトラブルの懸念(転売、食中毒、賞味期間切れ食品の流通など)
- ⑤ 利用団体からの活用報告
- ⑥ その他

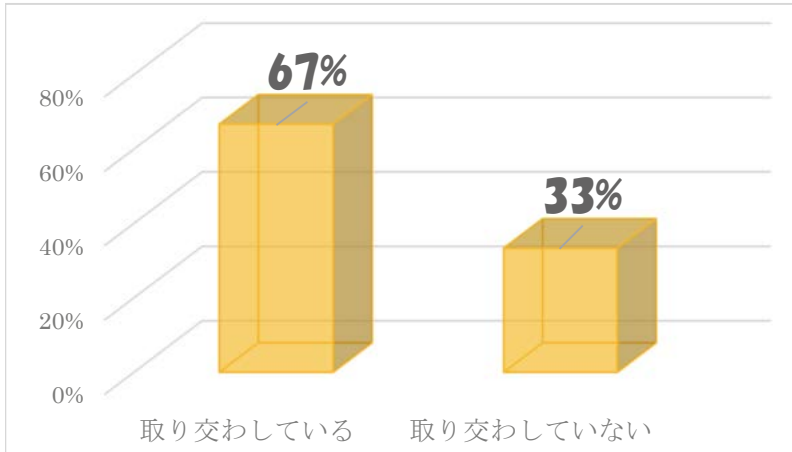


【その他】フードバンク団体を通じているので、利用団体とは直接やり取りしていない／保管場所の確保(支所で保管しているが、共同購入の物量が増えて支所に余裕がなくなっている)／店舗からまだ食品としては成立する廃棄品の提供はできていない／県内食品提供のアンバランス／組合員への広報／ご家庭のみならず、企業や工場からも集められるネットワークづくり／前年度産米の提供があるが常温で保存していた場合は虫が湧いていることがある

* 食品提供での課題はマッチング、在庫管理、配送費用、リスク管理、報告業務など全般にわたる。

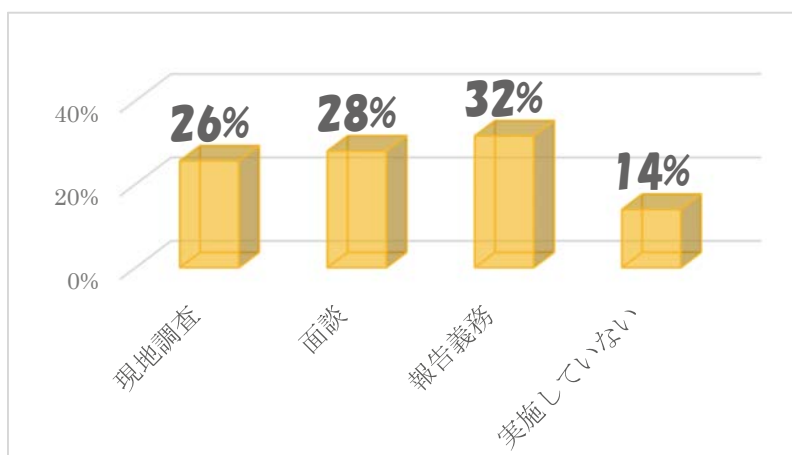
【質問 8】 食品提供にあたり、利用団体と食品提供に関する誓約書などを書面にて取り交わしていますか？

- ① 取り交わしている
- ② 取り交わしていない



【質問 9】 利用団体と食品提供に関する誓約書などを取り交わす場合、実施していることがありますか？

- ① 現地調査
- ② 面談
- ③ 食品の利用状況など報告義務
- ④ 実施していない



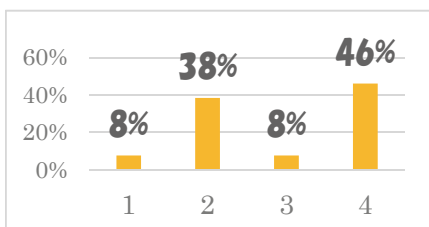
* 誓約書などを取り交わす際、現地調査、面談、報告義務などを 3 割程度が実施。

*質問 10～質問 12 は、フードバンク活動を行っている団体向けの質問に回答いただきました。

【質問 10】 貴生協がフードバンク活動を運営・検討する場合の課題を教えてください。

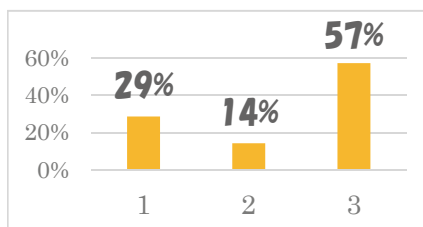
(1) 配送について

- 1 宅急便代がかかる
- 2 配送できる人材
- 3 資材の不足
- 4 その他



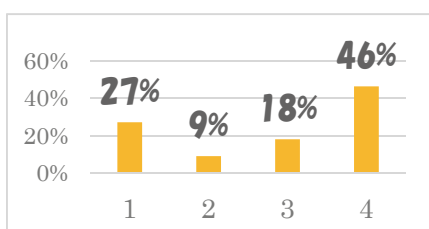
(2) マッチングについて

- 1 引取り先の調整に時間がかかる
- 2 返答までの期日が短い
- 3 その他



(3) 保管について

- 1 倉庫料がかかる
- 2 冷蔵庫が必要
- 3 冷凍庫が必要
- 4 その他

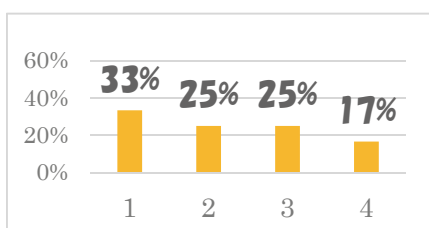


(4) 資金について（自由回答）

正会員会費と賛助会費。企業からの寄付金。フードバンク団体への助成事業もおこなっている／2019 年度決算：サポーター賛助金・寄付金（880 万円）、事業連合加盟生協からの分担金（1,300 万円）＝合計 2,180 万円／組合員からの応援募金を実施／依頼団体が増え、平等な支援（資金）の割り振りが困難になっている／生協の事業とするか、生協の組合員活動とするか、法人化するか。商品管理やマッチング業務にかかる人件費を、運営資金に充てられたら、各生協は非常に助かると思います

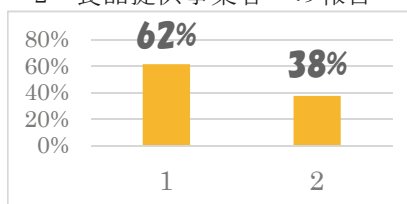
(5) 在庫管理

- 1 賞味期限の管理が負担
- 2 受取数と利用数があわない
- 3 管理する人材の不足
- 4 その他



(6) 用途・報告

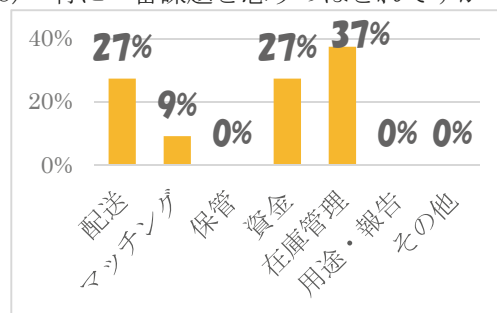
- 1 利用団体の使用用途の確認
- 2 食品提供事業者への報告



(7) その他

回答無し

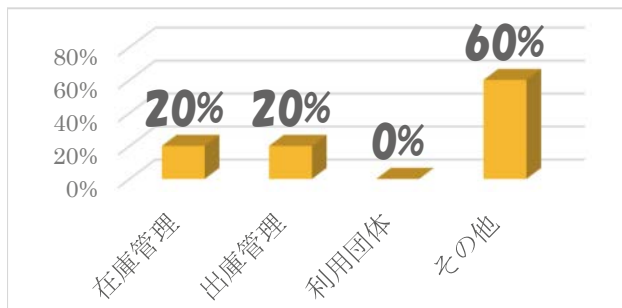
(8) 特に一番課題と思うのはどれですか



*食品提供の課題としては、配送人員の不足、資金、在庫管理の重要度が高い

【質問 11】 食品提供にあたり、貴生協で、すでに使われているシステムがありましたら教えて下さい。

- ① 在庫管理業務
- ② 出庫管理業務
- ③ 利用団体へのマッチング
- ④ その他



【その他】

2020 年度に福岡県の予算で開発した「フードバンク支援システム」の試用運転中／物流センターの内部販売システムを流用しています。

*既存のシステムを利用している生協は5 団体ある。マッチングシステムはない。

【質問 12】 貴生協で新しいシステムを活用するとしての評価を教えてください。

		(低い) ← 重要度 → (高い)
食品提供者としての登録ができる	・セキュリティが保障されている・個々の団体と食品提供に関する誓約書が不要となる・会員制であるためフードバンクの趣旨を各団体が理解している・約束が守られる	
利用者の情報を確認できる	・セキュリティが保障されている・会員制であるためフードバンクの趣旨を各団体が理解している・約束が守られる	
提供食品情報をデータ入力できる	・保管場所、引渡条件、アレルギー表示や賞味期間など記載項目が決まっているため確認漏れがない・情報発信の業務軽減	
提供した食品の利用先利用団体が提供食品の情報を閲覧し、希望数を入力できる	・食品のマッチング業務軽減	
利用団体の活用報告を閲覧できる	・食品活用の状況把握が可能となる	

*提供者登録、利用者登録、食品情報入力、マッチング、活用報告は全般的に期待度が高い。

【質問 13】 実際にマッチングシステムが運用可となった場合、利用されるとした際の評価基準を教えてください。

ランニングコスト	重要度（低い⇔高い）	<table><tr><th>重要度</th><th>割合</th></tr><tr><td>1 (低い)</td><td>4%</td></tr><tr><td>2</td><td>8%</td></tr><tr><td>3</td><td>28%</td></tr><tr><td>4</td><td>24%</td></tr><tr><td>5(高い)</td><td>36%</td></tr></table>	重要度	割合	1 (低い)	4%	2	8%	3	28%	4	24%	5(高い)	36%
	重要度	割合												
1 (低い)	4%													
2	8%													
3	28%													
4	24%													
5(高い)	36%													
A：無料であれば利用 B：有料でも利用する	<table><tr><th>利用条件</th><th>割合</th></tr><tr><td>A：無料の場合</td><td>42%</td></tr><tr><td>B：有料の場合</td><td>8%</td></tr><tr><td>空欄</td><td>50%</td></tr></table>	利用条件	割合	A：無料の場合	42%	B：有料の場合	8%	空欄	50%					
利用条件	割合													
A：無料の場合	42%													
B：有料の場合	8%													
空欄	50%													
業務負担の軽減	重要度（低い⇔高い）	<table><tr><th>重要度</th><th>割合</th></tr><tr><td>1 (低い)</td><td>4%</td></tr><tr><td>2</td><td>9%</td></tr><tr><td>3</td><td>30%</td></tr><tr><td>4</td><td>30%</td></tr><tr><td>5(高い)</td><td>27%</td></tr></table>	重要度	割合	1 (低い)	4%	2	9%	3	30%	4	30%	5(高い)	27%
重要度	割合													
1 (低い)	4%													
2	9%													
3	30%													
4	30%													
5(高い)	27%													
取扱い食品の増加	重要度（低い⇔高い）	<table><tr><th>重要度</th><th>割合</th></tr><tr><td>1 (低い)</td><td>9%</td></tr><tr><td>2</td><td>9%</td></tr><tr><td>3</td><td>36%</td></tr><tr><td>4</td><td>32%</td></tr><tr><td>5(高い)</td><td>14%</td></tr></table>	重要度	割合	1 (低い)	9%	2	9%	3	36%	4	32%	5(高い)	14%
重要度	割合													
1 (低い)	9%													
2	9%													
3	36%													
4	32%													
5(高い)	14%													
その他評価基準	重要度（低い⇔高い）	<table><tr><th>重要度</th><th>割合</th></tr><tr><td>1 (低い)</td><td>17%</td></tr><tr><td>2</td><td>8%</td></tr><tr><td>3</td><td>59%</td></tr><tr><td>4</td><td>8%</td></tr><tr><td>5(高い)</td><td>8%</td></tr></table>	重要度	割合	1 (低い)	17%	2	8%	3	59%	4	8%	5(高い)	8%
重要度	割合													
1 (低い)	17%													
2	8%													
3	59%													
4	8%													
5(高い)	8%													

【業務負担の軽減について】

使用者の対象範囲で異なるが NPO 団体や支援者が利用する場合はシステム利用の周知をしっかりとしないと大変／フードバンクの直接的な運用は行わないが、支援する場合に上記の仕組みは大変喜ばれると考える。行政との連携で、活用ができればよい／スマホ等の端末で JAN コード読み取り→商品情報表示→その他賞味期限などのデータを入力する（もしくは撮影する？）⇒データ完成、など、打ち込み作業と商品管理をスムーズにしたい。／提供された商品の仕分け業務が半減されるとよい。

【取扱い食品の増加について】

生鮮もの、冷蔵、冷凍ものがあると良いが、保管環境の課題がある。／賞味期限が、2 ヶ月以上ある食品を回収しているため、1 ヶ月の食品も回収できるようになるとよい。／ケース単位での増加は受け入れられるが、個別商品ごとの仕分けは物量が増えたと対応できない。

【その他】

現在、フードドライブに提供のあった食品は、フードバンク団体に全て回収してもらう仕組みで運用中。フードバンク活動の運営や、食品のマッチングまでは来ていません。／持続可能な事業運営の方式は、地域によって異なると思いますので、生協が運営する NPO 法人や子会社のほか、生協が連携・協定締結等で結びついた団体でも支援システムが利用可能であってほしい。

VII

寄稿

フードバンク活動マッチング支援システムについて



【寄稿】

フードバンク活動マッチング支援システムについて

公益社団法人フードバンクかながわ
事務局長 藤田 誠

フードバンクかながわの現在の取扱い食品は、常温で保存が可能なもの（冬場のみ農産物）で、取扱量は事業開始1年目（2018年）が約46トン（28.6万点）、2年目が約97トン（27.7万点）、3年目の今年度は、推計190トン（70万点）と急激に増加しています。

食品を寄贈いただいている団体・企業（合意書締結）は142団体（社）、フードバンクから食品を提供している団体（合意書締結：行政・社協、地域フードバンク、子ども食堂など）が205団体となっており、取扱量も寄贈団体、利用団体も当初計画を大幅に上回る状況になっています。

しかし、食品ロスの現状（神奈川県内の家庭から発生する食品ロス22万トン）からみるとほんの一部の量の取扱い、また、神奈川県内の貧困（最低生活費以下の生活をしている方）は150万人以上と推計していますが、こちらも、ほんの一部の方々への食支援という到達点であります。

フードバンク活動の特徴の1つでもあります、需要（利用団体の希望品目と量）と供給（寄贈団体の品目と量）をよりの確に調整（マッチング）することが課題となっています。とくに食品関連企業からはトレーサビリティの確保が求められています。

このような状況の中で、取扱量や取扱品目を拡大し、より多くの方々（団体）に食品を提供させていただくためには、保管場所や人材の確保、物流体制及び食品の入出庫管理強化などと併せて、需要と供給を的確に結びつけるための仕組みやICT化が必要であり、今回の「フードバンク活動マッチング支援システム」には、大きな期待を寄せているところであります。

今回構築した「マッチングシステム」について

◆基本構造は、良いと思います。

◇例えば、フードバンクかながわに登録（合意書締結）している団体・企業（上記参照）が使用することを想定すると、次のような課題（機能追加）があると考えます。（順不同）

- ・食品提供事業者（142団体）＝食品関連事業者のほか、行政等の公的機関など防災備蓄品を寄贈いただく団体・企業があります。また、利用団体も広範な団体が登録していますが、常勤の運営スタッフは3名の少人数で運営しています。
- マッチングシステムを常時注視することは不可能ですので、可能な限り自動化（提

案数量に達した場合：終了を表示 残数表示 など）が必要です。

- ・中には、一般に消費されていない食品や極端に量が多い場合もあるので、事前連絡調整の機能。
- ・商品規格やケース入数、J A Nコード、アレルゲン情報、(実勢価格)、食品の画像やレシピ・調理例等の登録機能（アップロード）。
- ・団体登録項目に事業者種別、利用団体種別・活動エリア、活動規模・頻度などの管理項目を設け、エリアや団体（種別）等を限定し案内できる機能。
- ・事業者、事務局はP Cでの操作、利用団体側はスマホでの操作が多いと予想されるので、P Cとスマホ（画面）の切り替え機能。
- ・統計データ等出力（ダウンロード）機能。

※とくに利用団体側の操作については、簡便に（パソコンやスマートフォンの操作が苦手な方が多く感じるため）、操作マニュアルもより簡便にする必要を感じます。

※神奈川県全域はもとより、全国のフードバンク活動で活用されることを前提に考えると。必要と思われる機能は可能な限り備え、カスタマイズしやすいようにしておくことも必要であると考えます。

◆上記以外にも課題はあると思いますし、システムの機能を充実させるためには、当然、開発費用も多くかかります。農林水産省をはじめとする国からの拡大・継続した支援（助成）が不可欠ですので宜しくお願いします。

VIII

寄稿

地域協働によるフードバンク活動マッチング支援事業の展開
「ビーバーリンク」をモデルとしたマッチングシステム



【寄稿】

地域協働によるフードバンク活動マッチング支援事業の展開 「ビーバーリンク」をモデルとしたマッチングシステム

東京家政学院大学 現代生活学部 教授

上村協子（食品ロス削減推進会議 委員）

はじめに

日本で大量の食品ロスが発生している。フードサプライチェーンが複雑に絡み合い様々な段階で廃棄される未利用食品（食品ロス）について、フードバンク等を積極的に活用して、子ども食堂など食品を必要とする地域協働生活の現場に届けたいという社会貢献意識は高まっている。

しかし、日本のフードバンクの歴史は短く、基盤強化が喫緊の課題である。特定非営利活動法人セカンドリーグ神奈川が、2020 年度に「ビーバーリンク」をモデルにしたマッチングシステム（以下「ビーバーリンクモデル」）の開発に取り組んだ。本報告書において示されたマッチングシステム「ビーバーリンクモデル」は、食品関連事業者とフードバンクや地域の活動団体をつなぐ有効なツールとなると期待される。

本稿では、従来のフードサプライチェーンから抜け落ちて廃棄されてきた食品を、ICT の技術力を活用し事業者でも消費者でもある生活協同組合やフードバンクや行政が連携協働して、いかに地域の協働で生活者に届ける新たな循環の仕組みをつくろうとしたのか。フードバンク活動マッチングシステム「ビーバーリンクモデル」を事例に、地域協働による持続可能な消費の実現にむけた互助による活動の可能性を、検討した。

第1節 食品ロス削減推進の基本方針からみる取り組みの意義

『食品ロスの削減の推進に関する法律（令和元年法律第 19 号。以下「推進法」）』が 2019 年 5 月、超党派の議員立法として成立した。推進法は、「食品ロスの削減に関し、国、地方公共団体の責務等を明らかにするとともに、・・・食品ロスの削減を国民運動として総合的に推進する」ことを目的に同年 10 月 1 日に施行された。

政府は、「食品ロス削減推進会議」を、2019 年 11 月、12 月、2020 年 2 月の 3 回消費者庁を事務局として開催し、『食品ロスの削減の推進に関する基本的な方針（以下「基本方針」）』を検討した。食品ロス削減推進会議委員の一人である一般社団法人全国フードバンク推進協議会代表理事米山恵子氏は、第 2 回推進会議において国内フードバンクの共通課題①運営費の不足②インフラ整備（事務所・倉庫・配送用車両等）③人手不足④ノウハウの不足を解決するために「フードバンク団体の基盤強化への支援」について基本方針に記載することを切実に訴えた。

2020年3月末に閣議決定された基本方針には、基本的施策の（6）未利用食品を提供するための活動の支援等として次のような文章が記載されている。

表1 食品ロスの削減の推進に関する基本的な方針基本的施策にみるフードバンク活動

（6）未利用食品を提供するための活動の支援等

フードバンク活動は、食品ロスの削減に直結するものであるほか、生活困窮者への支援などの観点からも意義のある取組であり、国民に対してフードバンク活動への理解を促進する。具体的には以下のとおりである。

・関係者相互の連携のための取組（例：食品関連事業者とフードバンク活動団体とのマッチングや提供される食品の情報共有、フードドライブの推進）を含めた、フードバンク活動の支援を行う。事業者等によるフードバンク活動団体の取組への広範な支援を推進する。

以下 略

食品ロスの削減の推進に関する基本的な方針基本的施策より

https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_policy/information/food_loss/promote/pdf/promote_200331_0001.pdf

今回実証実験が行われたフードバンク活動マッチング支援システム「ビーバーリンクモデル」はまさに、基本方針の基本的施策（6）未利用食品を提供するための活動の支援等として、関係者相互の連携を活性化するためのシステムとして期待されるものである。

第2節 地域協働によるフードバンク活動マッチング支援

マッチングシステム「ビーバーリンクモデル」は、フードバンク活動支援について生活協同組合パルシステム神奈川の県内13か所ある配送センターのなかから2か所を活用して受け渡しが行える点。宅配型生協の利点をいかして保管倉庫を活用し青果、冷凍品が扱える点が特徴である。

（1）日本のフードバンク活動

公益財団法人 流通経済研究所の調査によればフードバンクの2018年の食品取扱量は2,850トン（回答のあった76団体の合計）。食品取扱量の対前年比は、2017年が118%、2018年が127%と増加している。同調査により食品提供者を業種別に見てみると、農家、製造業者、小売業者、生協、卸売業者の順に提供を行っている割合が高い。食品受取先は、「子ども食堂」「生活困窮者支援（個人支援、生活困窮者支援団体）」「地方公共団体・社会福祉協議会等」「児童養護施設」が6割超と多い。

フードバンクの活動のあり方はこの数年間で大きく変化し上記調査の食品受取先では2016年度から2年間で「子ども食堂」「他のフードバンク／フードバンク全国組織」「個人支援」は急激に回答率の上昇している。流通経済研究所では、食品の受け渡しを類型化しており、在庫型（倉庫で保管し必要に応じて配送）クロスドッキング型（拠点に集約して出荷）引取・配送型（倉庫を使わず、直接配送）仲介型（輸配送は行わず、仲介・調整に重点化）などの形があるとしている。

令和2年版消費者白書では、食品ロス削減を特集としている。そのなかでビーバーリンクモデルを検討する

表2 つくる責任、つかう責任、減らす責任～食品ロス削減－持続可能な社会のために－
に見るフードバンクとエシカル消費

図 I-2-1-1	SDGs のゴール（目標）	P78
図 I-2-2-1	食品廃棄物等と食品ロスの発生量（2017 年度推計）	P82
図 I-2-2-3	食品ロスの主な発生要因（フロー図）	P85
図 I-2-2-35	国内のフードバンク団体数の推移と食品取扱量別の団体数割合	P121
図 I-2-2-38	フードバンク活動推進のための情報共有プラットフォームのイメージ	P122
図 I-2-4-1	エシカル消費とは	P147
図 I-2-4-3	消費者行政における持続可能な社会に向けての概念図	P150
事例	パルシステム生活協同組合連合会 宅配の強みをいかして生産者と消費者をつなぎ食品ロス削減	P89

出典【令和2年版消費者白書特集】

つくる責任、つかう責任、減らす責任～食品ロス削減－持続可能な社会のために～

https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_research/white_paper/assets/2020_white_paper_0003.pdf

（2）地域生協の食品ロス削減活動

消費生活協同組合（以下、生協）は、消費生活協同組合法（昭和23年法律200号）に基づき設立された相互の助け合いにより自発的に組織する非営利組織で、組合員が、出資、参加、利用することで運営される。日本生活協同組合連合会 COOP は、全国にある316の生協が加入し、組合員総数2962万人、会員生協の総事業費約3.5兆円（数字は2019年度末現在 生協の社会的取り組み報告書2020）と、日本最大の消費者組織とされる。

日本生協連の前田昌宏氏は、「生協の食品廃棄物・食品ロス削減の取り組み」（2020）において、取り組みを「全国組織・日本生協連の取り組み」と、「地域生協の取り組み」大きく2分して説明し、地域生協の取り組みとしては、①リサイクル・ループの構築②規格外品の

供給③フードバンク④てまえどり（店舗の取り組み）⑤組合員とともに学び・実践する取り組みをあげている。そのフードバンク事例の中で、フードバンクかながわは、神奈川県下を事業エリアとする複数の生協と労働者福祉協議会、労働金庫、農協など複数団体のコンソーシアム型で設立された点が特徴として紹介されている。

表3 地域生協の食品ロス削減の取り組み 前田「生協の食品廃棄物・食品ロス削減の取り組み」『流通情報』より作成

出典 上村協子食品ロス削減推進による穏健なる生活革命『生活協同組合研究』vol.542

取り組み項目	地域生協の取り組み例	取り組み内容
① リサイクル・ループの構築	コープこうべ（兵庫県）	バイオガス発電
	みやぎ生協（宮城県）	エコフィード（液状化飼料）
	大阪いずみ市民生協（大阪府）	堆肥化 ハートコープいずみ 野菜生産 エコロジーファーム
	福井県民生協（福井県）	堆肥化 福井県民生協の産直生産者エコファーマー野菜生産
② 規格外品の供給	コープデリ連合会（埼玉県）	規格外農産物を宅配カタログで訳アリ品として販売
	パルシステム連合会（東京都）	規格外農産物について組合員の声から生まれたアイデアを商品化
③ フードバンク	コープフードバンク（みやぎ生協から、東北6県）	寄贈食品を福祉施設へ「誰でも安心して暮らせる社会づくり」配達ボランティアや仕分けの場の提供
	トドックフードバンク（北海道） コープさっぽろ	返品を児童養護施設へ。届け先で食育イベントや料理体験の提供
	フードバンクかながわ（神奈川県）	コンソーシアム型、複数の生協と労働者福祉協議会、労働金庫、農協などの複数多様な団体がフードドライブ
	福岡県フードバンク協議会 エフコープ（福岡県）	県行政、全農、ワーカーズコープ、フードバンクを支援する仕組み
④ 店舗でのてまえどり	コープ こうべ	消費・消費期限の近い商品の購入を促進する仕組み
⑤ 組合員とともに学び・実践する取り組み	組合員活動での学びの取り組み	冊子作成（コープこうべ） セミナー（コープさっぽろ）
	組合員がフードドライブに参画	37 生協が 488 か所で実施

(3) 宅配型生協 パルシステムでの食品ロス削減

生協の宅配には、自宅など個人宅配とグループや職場に届ける班宅配がある。生協の社会的取り組み報告書、2020によると、地域生協の宅配事業の供給高（売上高）は1兆8340億円、なかでも個配供給高は1兆3212億円を占め、店舗事業8973億円を上回る。

石田敦氏（2016）によれば、パルシステムは、週に1回、定期的に組合員宅へ商品をとどける個人宅配が中心である。カタログによって商品を紹介し、宅配時に専用の用紙を提出することで注文を受け、2001年からスタートしたインターネットサイトや、スマートフォンによるアプリケーションでの受注も増えている。宅配事業における取扱いは、受注ベースで8割を食品が占める。そのうち米穀、青果、精肉、養鶏、牛乳、水産物などの産直品が4割と高く、事業の根幹を支えている。パルシステムの産直4原則は①生産者、産地が明らかであること、②生産方法や出荷基準が明らかで生産の履歴が分かること、③環境保全型・資源循環型農業をめざしていること、④生産者や組合員相互の交流ができること、とする。

「宅配事業は店舗事業と比較して非常に食品ロスが少ないことが確認できる」と語るのは、パルシステム連合会植田真二氏である。植田真二氏（2020）によれば、青果の廃棄率を一例にしてみると、全国スーパーマーケット協会の2019年店舗の廃棄率は平均3.4%であるのに対し、宅配ではセットセンターでセットされずに余る青果の割合は18年上期で0.7%と大きく差がある。比較したときに、宅配事業は店舗事業と比較して非常に食品ロスが少ないことが生協の価値として確認できたとする。

もともと事前に予約された食品を個別の組合員に届ける宅配事業は、生産者と消費者が近く食品ロスが少ないしくみであるが、パルシステムではセットされずに余ってしまった予備青果を、子ども食堂やフードバンクなど必要としているところへ届けるため、物流網と地域の拠点(各生協配送センター)を活用する形で整備し、パルシステム全会員生協の取り組みとして2020年度から本格的に実施する予定であった。感染が拡大し会員生協が連携する子ども食堂も一部開催中止となったため、フードパントリーに手法を変えた。子ども食堂やフードバンクなどの登録146団体に対し、会員生協を通じて2020年度はこれまで24.4tの食材を提供した。また、派遣切りや居住喪失者などの生活困窮者に対し、新宿都庁下「新宿ごはんプラス」（認定NPO法人もやい等）に37日間7,490食分をはじめ、東池袋中央公園炊き出し(NPO法人TENOHASI等)に、隅田公園炊き出し及び食材提供((一社)あじいる等)、府中緊急派遣村、厚木市生活困窮学生緊急支援(フードバンクあつぎ)、川口市在日外国人支援に合計13,490食を提供し、12月の「年越し」活動支援では「つながる相談ネットワーク東京」にも提供した。

上記の数字は、2021年1月8日に開催されたパルシステム内会議で報告されたものである。

第3節 マッチングシステム「ビーバーリンクモデル」の実証実験

2020年の実証実験「ビーバーリンク」が構築された過程と、実証実験結果の概要をまと

めておく。マッチングシステム開発にあたって、セカンドリーグ神奈川が主催した会議の参加者や、実証実験にむけてシステムが開発されるに至った流れは、表4のとおりである。

ソフト開発担当3社（富士通株式会社 ピープルソフトウェア株式会社 ソレキア株式会社）はほぼすべての会議に参加した。

注目される点は、7月29日に開催されたマッチングシステム構築実践者分科で全国のフードバンクから貴重な声が寄せられた点、および、アンケート調査がフードバンク版と生協版の2種類行われた点である。

表4 セカンドリーグ神奈川がマッチングシステム構築検討会として主催した活動概要

2020年		
5月18日（月） 14:00-16:15	ソフト開発担当3社 打ち合わせ	
6月18日（木） 15:00-17:00	第1回マッチングシステム構築検討会	、
7月6日（月） 15:00-17:00	第2回マッチングシステム構築検討会	
7月29日（水） 10:30-12:10	◆マッチングシステム構築実践者分科会	
■フードバンク版 アンケート調査【実施期間】2020年10月1日～10月31日 農林水産省食料産業局バイオマス循環資源課を通じてフードバンク団体120件に案内。 回答数 30		
10月16日（金） 15:00-17:00	第3回マッチングシステム構築検討会	
実証実験 ビーバーリンク@港北と@鶴見 ビーバーリンク@港北 日時：11月13日（金）13時～13時30分 12月11日（金）13時～13時30分 ビーバーリンク@鶴見 日時：11月18日（水）13時～13時30分 12月16日（水）13時～13時30分		
実証実験 防災備蓄品引き取り		
■生協版 アンケート調査【実施期間】2020年11月15日～12月31日 日本生活協同組合連合会（日生協）を通じて案内 回答数 38		
12月23日（水） 15:00-17:00	第4回マッチングシステム構築検討会	

1) 「ビーバーリンクモデル」実証実験拠点：@港北と@鶴見

ビーバーリンクは、登録拠点は、2021.2月現在で10箇所。そのうち、パルシステム神奈川のセンターは5箇所である。実証実験が行われた場所は2箇所、どちらも生活協同組合パルシステム神奈川の配送センターでビーバーリンク@港北とビーバーリンク@鶴見である。

2) 2クールの実証実験時期：2020年11月、2020年12月

【実証実験1クール】(2020年11月)【実証実験2クール】(2020年12月)の2クールが行われた。

@港北では金曜日13時～13時30分(11月13日、12月11日)、

@鶴見では水曜日の13時～13時30分(11月18日、12月16日)

3) 食品提供者(団体)と食品利用者(団体)

実証実験で取り扱った食品は、@港北では青果、@鶴見では青果と冷凍品である。

食品利用者の団体数は、ビーバーリンク@港北では11月は3団体、12月は追加が1団体あり4団体、ビーバーリンク@鶴見では、11月12月ともに4団体である。

表5

ビーバーリンク@港北と@鶴見 【実証実験1クール】【実証実験2クール】の結果概要

NO1 ビーバーリンク@港北 ・日時：11月13日(金)13時～13時30分 12月11日(金)13時～13時30分 ・場所：パルシステム神奈川横浜北センター・利用団体：3団体(→4団体) ① ポートファミリアくすの樹 ②特非法人)元気福祉就労支援ボランティア支えあいの会 ③ MGMプロジェクト ④(2クールで追加参加 関内まちづくり振興会) 取扱い食品：青果13品目 214袋 取扱い食品：青果12品目 276袋
NO2 ビーバーリンク@鶴見 日時：11月18日(水)13時～13時30分 12月16日(水)13時～13時30分 場所：パルシステム神奈川鶴見センター・利用団体：4団体 ① 駒岡丘の上こども食堂 ②特定非営利活動法人なまむぎこども食堂 ② つるみ元気塾 ④すまいる こども食堂 取扱い食品：青果12品目 205袋 冷凍品6品目 133箱 取扱い食品：青果11品目 231袋 冷凍品1品目 200袋

第4節 アンケート調査結果からの示唆

「Q6 フードバンク活動を行うにあたり、システム上、必要であると思うことを教えてください。」に次のような基本的な姿勢を指摘する回答があったことは注目される。

「本来、団体の理念や活動形態などを食品事業者側に十分に理解してもらい互いに信頼関係を築いたのちに食品のやり取り、または活動資金提供へ繋げていくのが持続可能なフードバンクのあり方だと考えるので、マッチングサイト頼りになってしまうと個別に企業

へ対して自団体の特性や活動理念を伝えにくく、その先にある企業との業務提携や活動資金提供に影響が及ぶ。また、マッチングサイトを構築することは企業に対して食品ロスの削減ではなく、フードバンクを都合の良いゴミ箱として廃棄コストの削減と受け止められる可能性があるのも、それを防ぐ何らかの対応がシステム上で必要であると思う。」このアンケート調査への回答が指摘する点は重要である。

「ビーバーリンクモデル」がもつコミュニティ形成とフードバンク支援の関係の特徴を確認しておきたい。マッチングシステムがより効果的にフードバンク活動支援として活用されるために、今回の「ビーバーリンクモデル」は、①宅配型生協との連携②コンソーシアム型フードバンク③地域協働による社会課題を解決してきた活動各種支援団体が緩やかに場所と食品をシェアし、様々な支援活動を展開、地域で支援者を通じて食品を必要とする利用者がつながり地域のセーフティネットの役割を担うコミュニティ形成につながっていくことの3点が特徴である。箇条書きで整理する。

■ 1) セカンドリーグ神奈川は宅配型生協パルシステム神奈川と密接な連携がとれる組織である。

■ 2) 公益社団法人フードバンクかながわは、食品寄贈団体・企業（合意書締結）は142団体（社）、食品提供団体（合意書締結：行政・社協、地域フードバンク、子ども食堂など）が205団体という、コンソーシアム型フードバンクでの緩やかな組織との協働で活動を行っている。

■ 3) ビーバーリンクは、2017年度から、かながわボランティア活動推進基金21協働事業負担金対象事業として、神奈川県6課と協働し、「食と地域をつなぎ神奈川から貧困をなくすK-Model構築事業」をからすすめるなかで活動してきた。

まとめ 新たなフードサプライチェーンと地域コミュニティへの期待

日本の地域に根づいたもったいないのスピリットは世界の持続可能な社会を先導することが期待された生活文化である。その日本で、第1次産業での「生産の現場」から、第2次産業・第3次産業を経て、私たち一人ひとりの食の「消費の現場」まで、複雑に絡み合うフードサプライチェーンがつくられ、生産と消費は分断されて、食料自給率が低い日本で、大量に食品ロスが発生する仕組みが作られた。大変残念なことに、日本はフードロス後進国であると言われる状況にある。

世界レベルの食料危機が懸念されるなかで、食品ロス削減は、特定分野で達成できない、各主体が連携して推進することが求められる喫緊の課題である。地域密着で積極的に、地に足をつけたフードバンク等を活用し、子ども食堂など食を必要とする生活者に届けたいという社会貢献意識は高まっている。繰り返しになるが「フードバンク活動は、食品ロスの削

減に直結するものであるほか、生活困窮者への支援などの観点からも意義のある取組であり、国民に対してフードバンク活動への理解を促進する。」と 2020 年 3 月末に閣議決定され、次は地域で実践をする場面となっている。

その一方でコロナウィルス感染症拡大に伴う第 1 緊急事態宣言が 2020 年 4 月 7 日からだされ外出自粛や飲食店営業が制限された。ステイホームといわれ、テレワークが推奨され、食を含めた日常生活を大きく変化した。従来、フードサプライチェーンで発生していた食品ロスとは異なる状況で食品・食材が未利用での廃棄がされる事態も発生している。

「ビーバーリンクモデル」は、互助の仕組みとスピリットで、食品提供者と食品利用者をつなぐフードバンク支援マッチングシステムをつくることによって、ビジネスとして拡大させるのではなく、利用者が必要とする内容と、食品ロスとなりそうな量を把握し、未利用食品を活用することである。セカンドリグ神奈川の食支援ネットワーク「ビーバーリンク」を実証実験の場としてフードバンク活動における「食品有効活用マッチングシステム」運用実践モデルが構築されている意義は大きい。今後さらなるフードバンク活動活性化にむけて、事業者、消費者、行政・NPO等が抱える課題や役割を理解のうえ、情報共有し生活者に効率的・効果的に進めていくべき創意工夫が求められる。

さようならお買い物をするだけの消費者、こんにちは持続可能な社会をつくる生産消費者。食が結ぶ都市と農業との共生型：地域からリカレントな循環を構築のヒントをビーバーリンクモデルは提示している。

国連の SDGs（持続可能な開発目標）も後押しし、食品ロス削減推進法の意義が社会に定着してきている。食品ロス削減、数値目標の達成だけでなく、食材の生産や流通の過程を知る消費者教育につなげることが重要であるといえよう。

参考論文

- 石田敦史 「宅配事業を通じた食品ロス削減」『食品と容器』vol.57 No.6 2016 年
- 井出留美 『食糧危機—パンデミック、バッタ、食品ロス』PHP 新書 2021 年
- 植田真仁 「もったいないプロジェクト」発の商品開発による食品ロスの削減 生協運営資料 No.314 2020 年 7 月号
- 上村協子 「食品ロス削減推進法と消費者市民社会」『都市清掃』vol.72No.352 2019 年
- 上村協子 「現代生活学研究—生活者がつなぐ食（消費）と農（生産）—」現代生活学研究会 科学研究費（17K00771）報告書
- 上村協子「食品ロス削減「推進法と基本方針」にみる持続可能な消費」『日本調理科学会誌』vol.53 No.6 2020 年
- 上村協子 「食品ロス削減推進による穏健なる生活革命—消費生活協同組合の生活創造—」『生活協同組合研究』vol.542 2021 年 3 月
- 前田正宏、「生協の食品廃棄物・食品ロス削減の取り組み」『流通情報』No.546 2020 年
- 米山けい子「フードバンク活動から見える子どもの貧困」『都市清掃』vol.72No.352 2019 年

科研報告書【現代生活学研究 -生活者がつなぐ食(消費)と農(生産)-】代表者上村協子
<http://uemuralabo.webcrow.jp/index.html>



資 料



Ⅸ. 資料 マッチングシステム検討会実施状況

* マッチングシステム分科会

日 時：2020 年 5 月 18 日（月） 14:00-16:15

メンバー：富士通株式会社

ピープルソフトウェア株式会社

ソレキア株式会社

特定非営利活動法人セカンドリーグ神奈川

内 容：事業説明・システム範囲説明

今回の事業の説明と、想定するマッチングシステムの業務フローの説明、
イメージのすり合わせ。

* 第 1 回 マッチングシステム構築検討会

日 時：2020 年 6 月 18 日（木） 15:00-17:00

メンバー：富士通株式会社

ピープルソフトウェア株式会社

ソレキア株式会社

公益社団法人フードバンクかながわ

生活協同組合パルシステム神奈川

特定非営利活動法人セカンドリーグ神奈川

オブザーバー：農林水産省 食料産業局 バイオマス循環資源課 食品産業環境対策室

内 容：フードバンクを取り巻く情勢及び事業実施にあたっての留意点確認
フードバンクかながわの食品の流れ、ビーバーリンク食品の流れを共有
マッチングシステム構築の協議

* 第 2 回 マッチングシステム構築検討会

日 時：2020 年 7 月 6 日（月） 15:00-17:00

メンバー：富士通株式会社

ピープルソフトウェア株式会社

ソレキア株式会社

公益社団法人フードバンクかながわ

生活協同組合パルシステム神奈川

特定非営利活動法人セカンドリーグ神奈川

オブザーバー：農林水産省 食料産業局 バイオマス循環資源課 食品産業環境対策室

内 容：マッチングシステム構築の協議

＊マッチングシステム構築実践者分科会

日 時：2020年7月29日（水） 10：30－12：10

メ ン バ ー：全国フードバンク推進協議会、認定特定非営利活動法人フードバンク山梨
社会福祉法人正仁会 あいあいねっと
特定非営利活動法人ふうどばんく東北 AGAIN
富士通株式会社
ピープルソフトウェア株式会社
特定非営利活動法人セカンドリーグ神奈川

内 容：各フードバンク団体の課題共有。マッチングシステムに関する期待など共有

＊第3回マッチングシステム構築検討会

日 時：2020年10月16日（金） 15：00－17：00

メ ン バ ー：富士通株式会社
ピープルソフトウェア株式会社
ソレキア株式会社
公益社団法人フードバンクかながわ
生活協同組合パルシステム神奈川
特定非営利活動法人セカンドリーグ神奈川

オブザーバー：農林水産省 食料産業局 バイオマス循環資源課 食品産業環境対策室
神奈川県環境農政局環境部資源循環推進課
神奈川県政策局SDGs推進課

内 容：アンケート実施状況・ビーバーリンク活動状況、実証実験の進め方を共有
マッチングシステムの概要、操作のプレゼンテーション

＊第4回マッチングシステム構築検討会

日 時：2020年12月23日（水） 15：00－17：00

メ ン バ ー：富士通株式会社
ピープルソフトウェア株式会社
ソレキア株式会社
公益社団法人フードバンクかながわ
生活協同組合パルシステム神奈川
特定非営利活動法人セカンドリーグ神奈川

オブザーバー：農林水産省 食料産業局 バイオマス循環資源課 食品産業環境対策室
神奈川県環境農政局環境部資源循環推進課

内 容：アンケート結果報告。フードバンクを取り巻く状況の共有
実証実験状況と課題の共有。成果共有会の実施、報告書作成について

私たちの想い

ひとつ、地域ではじめよう。お金優先の考えをやめ。
自然を大切にしよう。農を楽しみ。かけがえのない生命を育み。食を守ろう。
ひとの役に立つことをしよう。からだを動かし、みんなと力を合わせ。
面白いこと、楽しいことをしよう。仲間をつくろう。
女も男も、自分を生き。差別をやめ。
世界の人とつながろう。未来へ向かって、世代をつなごう。
地域へ、そして子どもたちへ。「セカンドリーグ宣言」より

セカンドリーグ神奈川では、地域の課題を受け止め、課題解決の活動の支援を、その状況や変化する社会情勢に臨機応変に対応しています。

セカンドリーグ神奈川がめざすこと



K-Modelとは、持続可能な
エシカルな暮らしを創造するし
くみです。

- ・必要とする人へ、提供する・・・1.貧困をなくそう
- ・提供することで、社会的活動を応援・・・17.パートナーシップ
- ・新しい価値観で、再利用を促進・・・12.つくる責任使う責任
- ・付加価値をつけて、新たな商品へ・・・9.産業と技術革新の基盤をつくろう
- ・利用することで、資源の有効活用・・・15.陸の豊かさを守ろう
- ・購入することで、地域活動を応援・・・11.住み続けられるまちづくりを



はじめる！ つながる！ ひろがる！
かながわの新しい結び*ハッピーをつなげよう！
NPO法人セカンドリーグ神奈川

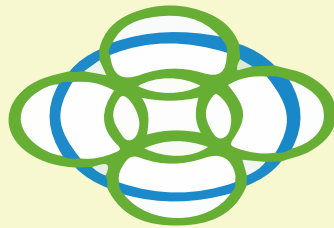
特定非営利活動法人セカンドリーグ神奈川

住 所：横浜市港北区新横浜3-18-16

新横浜交通ビル3F

電 話：045-470-5564

メール：sl-kanagawa@pal.or.jp



Beaver Link

